

福島のお母さんたちの「決意」に心打たれて

明け方までの大雨が嘘のように晴れた 2013 年 9 月 4 日、郡山市内であいコープふくしまと常総生協（本部・茨城県守谷市）による「わたの花の神秘を学び広げる交流会」が開催されました。

この日は常総生協・村井和美理事長による綿の歴史や品種についてのレクチャーのほか、これまでの活動についての講演が行なわれ、組合員たちは熱心にメモを取りながら聞き入っていました。

両生協では、11 年秋から綿を通じた交流を行なっています。きっかけは、震災が起こった 11 年の 7 月に開かれたあいコープふくしまの総代会での柳沼麻衣子さんの発言でした。お腹には赤ちゃんがいました。

柳沼さんは、総代会で次のようにお話しされました。

「震災後に妊娠が分かり、2 歳の息子と県外避難も考えましたが、最終的に家族みんなで離れずに福島に残ることに決めました。毎週届くあいコープふくしまの『ひまわり』（手書きのニュースレター）を読んで、あいコープの方針や生産者さん、組合員さんの皆さんの思いを知ることができ、安心しました。心強い支えです。

あいコープは、注文した商品を届けてくれるだけでなく、組合員の心に寄り添ってくれる生協です。これからも、あいコープの安全、安心な食品をいただき、『避難しなくても元気な赤ちゃんを出産できた』と証明したいと思います」

総代会に招かれていた村井理事長は、この柳沼さんの思いに心を打たれ、「福島で頑張るお母さんたちを少しでも元気付けることができれば」と思い、布団をプレゼントすることにしました。

茨城県つくば市の綿花栽培グループ「おらコットン」を主宰している村井理事長は、十数年前からつくば市内で綿花を栽培し、綿を取って座布団や半てんを作ってきたそうです。

村井理事長の思いに賛同した常総生協の組合員たちが綿の花から繊維を取り出す「綿繰り」をして約 100kg の綿を作り、常総市内の布団屋さんが布団に仕立てました。

11 年 10 月下旬に、出来たばかりの 20 組の布団が、妊娠中や 1 歳までの赤ちゃんがいるあいコープふくしまの組合員に贈呈されました。ふかふかで子どもたちも大喜びだったそうです。この布団は「生協の宝物」として、これからも、出産を控えたお母さんたちに引き継がれていきます。

綿を通じた交流はこうして始まり、のちに常総生協から綿花と綿繰り機が提供されました。

綿繰り作業は、あいコープふくしまの組合員にも大好評で、「綿繰りは難しそうだったけど、ハマりました。この楽しさを皆さんに教えてあげたい。楽しくて、癒やされます」（水野淳子さん）などの声が上がっていました。

●原発被害も一緒に乗り越える

講演のあとはみんなで楽しくランチを食べました。塩麴やトマト、納豆、オクラ、ベビーリーフなどがたっぷり入った2種類の冷製パスタと福島の梨を、おしゃべりしながら楽しく、おいしくいただきました。この日は、あいコープふくしま、常総生協を含めて約50人の参加があり、講演後とランチ



常総生協・村井理事長による、綿の歴史や品種、これまでの活動を講演する様子。



この日の朝に咲いた綿。

の際に自己紹介も兼ねて意見交換がありました。主だった意見を以下でご紹介します。柳沼さんも、11年の総代会のあとに授か^{くるみ}った来未ちゃんという元気な赤ちゃんを連れて参加されました。

◆不安でなかなか声を出せませんでした。いろんな方が「何かあったら声を掛けてね」と言ってくれましたが、「何かなかったら、何も言えないのかな」とも思っていました。常総生協さんは手を差し伸べてくれました。本当にありがとうございます（宮本香里さん）

◆福島の皆さんからは私たちも元気をもらっています。これなら大丈夫と思います。原発も何でも一緒に乗り越えましょう（常総生協・植原中子さん）

◆「つながり合う生協」っていいなと思います。子どもの頃、母が布団を打ち直しているのを見たことがあります。（布団を手作りするという）いいものは残したいですね。わが子を育てるように育てた綿で作ったお布団をいただいて感激しています。福島では、相当覚悟してみんなが生きています。免疫力を上げて、頑張っていきましょう（八重樫小代子さん）

◆妊娠中に原発事故が起こり、悔しくて毎日泣いていましたが、今は放射能や東京電力を許そうと思います。恨んでいると何でも誰かのせいにしてしまうし、ネガティブな気持ちは子どもにも伝わってしまいます。生命や食べ物大切さを子どもにも教えて、子育てを頑張っていきたいと思いません。放射能に怯えるために生まれてきたわけではありません。みんな辛いと思うけれど、人生を輝かせられたらいいなと思います（常総生協・板子さん）

この他にも「『子どもたちの未来』以上に必要なものってありますか？」「しゅんとばかりもしていられない」「これからも生協に感謝して生きていきたい」「綿繰りも楽しいけれど、常総生協の皆さんの温かい気持ちがうれしい」などの思いが述べられました。

また、参加できなかったあいコープふくしまの組合員たちからは、「常総生協の皆さまの温かいお気持ちをいただき、勇気と平静を取り戻すことができました」「今後もずっと放射能という見えない悪魔と戦わなくてはなりません、皆さまの温かいお心を支えに孫たちを見守っていききたいと思います」などのたくさんのメッセージが寄せられました。



「わたの花の神秘を学び広げる交流会」に参加なされた皆さん。

あいコープふくしまの佐藤孝之理事長

も、「村井理事長をはじめ、常総生協の皆さんから贈られた『綿の布団』はこれから生まれてくる幼子に次々と引き継がれていき、そして『綿の花』の栽培は、原発許さない運動のシンボルマークとして広げたい。放射能被害の不安と対策は共通の課題として取り組みたい」と話しています。